

(第133回) 麻雀大会 —金丸隆充氏 3回目の優勝—

3月7日、ようやく春の温かさを感じられる季節、いつもの雀荘「利一」にて第133回の麻雀大会が開催されました。当日は5組の予定でしたが、都合の悪い方がおられて、4組16名での戦いとなりました。毎度のことながら、楽しい会話の中にも鋭い読みや、腹の探り合いや駆け引きなど、真剣勝負が繰り広げられました。栄えある優勝は強豪との呼び名の高い、金丸隆充氏のぶっちぎりの3回目の優勝でした。

麻雀は昔より<ツキ>、<勘>、<流れ>に加え、確率論をベースに思考するなどの色々な戦術が言われていますが……。やはり冷静な読みなど強い雀士はすべてにおいて優れておられるのだと思います。

私事ですが、私は前々回最下位、前回オールマイナス<半チャン4回すべてマイナスの事>で散々な成績。今回こそ上位入賞を目指しましたが……。なんと又もやオールマイナス。

実は、昨年末ウオーキングの最中に前向きに転び左手の中指の先端の骨折、指のギブスが取れて、ヘタなゴルフを再開しようと思ったら、2月風邪をこじらせ肺炎と自己の不注意ながらまさに“運”から見放されており、せめて3月の麻雀大会でツキをと勇んで大会に臨んでこの有様！<麻雀をされない方に一言・・・オールマイナス賞を取るのも難しいのですよ？・・・負け犬の遠吠えか？>次回は運も味方に頑張ります！

次回は7月12日開催予定。多数のご参加お待ちしております。(大西 建男・記)

成 績	優 勝	金丸 隆充氏 (元) 日新製鋼
	2 位	西川 潔氏 (元) 新日本製鉄
	3 位	羽矢 惇氏 (元) 新日本製鉄
	BB賞	佐藤 眞一氏 (元) 大洋製鋼

優勝記

第126回大会では2回目の優勝が叶い、その折“2度ある事は3度ある”との格言もあれば、必ずや3度



目を狙うと戯れ言紛いの強弁を吐いてしまいました。

幸にも今回、3回目が正夢となつては幸運と安堵を覚え素直

に達成感に浸っております。

扨て、アイアン・クラブ麻雀大会は雀荘「利一」での開催が常ですが、私も毎月一度は「利一」を訪れるを常としています。アイアン・クラブ会員強豪雀士との交流目的ですが、継続期間も既に久しく、私にとっては今や最大級の楽しみシリーズとなっております。

昨年暮れ近くのこと、吾が麻雀史上初めての極めて珍しい役マン「地和(チホ)」をツモで射止め、今年に入り大会直前の2月末には闘牌開始で親番を引きイキナリ「四暗刻(スアコ)」をツモ和するなどなど、驚天動地の好調ぶりを秘かに実感出来たのもこの手合せからでした。

この頃の並ならぬ余勢を駆り優勝することが出来

ましたが、これは紛れもなく雀友諸兄のお陰であろうと只ただ感謝です。

また長い間、心地良い闘牌の場を提供して頂いた雀荘「利一」にも謝意を込めて一言。辞書には「利一」の言語はありません。

因って、聴牌(テナイ)を宣言する中国語の「立直(リチ)」との語呂合せとは考え難いと思ったのが運の尽きで、以来長々と私の「利一」命名由来探索は迷路にはまり混迷を極めています。あれこれと思案の末「利一」は勝負を利する一番の手段を示唆したものと思えた頃の麻雀は無味でやたらとくたびれた思いが残っています。

ただ私の麻雀の最大の弱点で思慮を欠くエイヤー的放銃は可成り少なくなり大変な副産物を得たと感慨深いものもあるのです。目下由来探索は休止中、雀荘「利一」への愛着は不変です。

ところでこれから先、為し遂げたい事は山ほどありますが“成らぬが楽しみ”との教えの説得力もなかなかのもの、兎にも角にも心身とも健やかで、楽しみながら麻雀に興じ大会参加を続けることが出来れば、これに勝るものなしが本音であります。これからもよろしくお願い致します。謝謝。(金丸 隆充・記)



以下余白